

FIFA ワールドカップ 3 大会の体格比較とその考察

A comparative consideration of the body type of the players for the past three

FIFA World Cup meetings

1K07A006-0

指導教員 主査 岡田純一先生

新井裕治

副査 菊地真也先生

【緒言】

今日、サッカーは世界で最も人気のあるスポーツと言われている。その最大の大会である FIFA サッカーワールドカップの予選には、現在 204 の国と地域が参加しオリンピックに匹敵する規模である。サッカーワールドカップの試合の様子は世界 196 カ国でテレビ放映され、その視聴者数は延べ 300 億人を超えオリンピックをしのぐ世界最大のスポーツイベントと言われている。また近年において 1994 年のドーハの悲劇を経て、1998 年のフランスワールドカップ初出場に始まり、南アフリカでのベスト 16 進出と近年着実に成長を遂げ、トップレベルに近づいてきた日本サッカー界は 2014 年開催のブラジルワールドカップで上位進出をうかがっている。最近では多くの日本人サッカー選手が海外に移籍をし、海外選手達と遜色のない活躍をみせるようになった。この事は日本のサッカー選手の体格が向上し、海外選手達に近づいてきたことが要因の一つとして考えられる。サッカー界では 10 年前後で世代交代が訪れる。そこでその間隔に当てはまる 1994 年のアメリカ大会から 2002 年の日韓大会、2010 年の南アフリカ大会を選び本研究の題材とし出場国の体格の推移を明らかにし、どのような影響を及ぼすか検討することを目的とした。

【方法】

1. 基礎資料

ワールドカップ出場選手の身長と体重の基礎資料は市販のメンバーリスト、FIFA の公式ホームページを利用した。

2. 研究対象

1994 年大会は出場 24 チーム、1 チーム編成 22 名の各国選手 528 人中 480 人（148 人は身長・体重のリストがなかったため除外）を対象とした。2002 年大会は出場 32 チーム、1 チーム編成 23 人の各国選手 736 人中 733 人（3 人は身長・体重のリストがなかったため除外）を対象とした。2010 年大会は出場 32 チーム、1 チーム編成 23 人の各国選手 736 人を対象とした。

3. 比較項目

ワールドカップ出場選手の体格を 1 大会ずつ別に比較し、

各チームの身長と体重を平均値・標準偏差・相関係数を用いた統計処理で行った。その中で大陸別の体格比較、ゴールキーパー・ディフェンダー・ミッドフィルダー・フォワードごとのポジション別の体格比較、大陸ごとのポジション別体格比較をそれぞれ行い、体格値（身長と体重の平均値）を求めた。

【結果】

1994 年大会、身長 178. 4±3. 0cm 体重 75. 1±2. 3kg、2002 年大会身長 180. 6±8. 5cm 体重 75. 9±6. 3kg、2010 年大会身長 181. 9±2. 2cm 体重 76. 8±2. 1kg と増加傾向が見られた。ポジション別の体格比較では全ての大会でゴールキーパー>ディフェンダー>フォワード>ミッドフィルダーの順となった。地区別の体格値比較では欧州の優位性が全大会で目立つ結果となり、地区ごとのポジション別に関しても同様の結果がみられた。

【考察】

サッカーは様々な体力特性が求められ、またポジションによって役割も異なり体格特性もそれぞれ変化する。比較的コンタクトプレーの厳しさが増すゴール前ではゴールキーパーとディフェンダーの体格値が優れている。またフォワードはディフェンダーの大型化に比例する傾向が見られた。ミッドフィルダーは競り合いをあまり求められないため、唯一身長は平均値は 180cm をこえなかった。このためポジション特性が体格値に影響を及ぼすことが推察された。

また近年、サッカー界では高度に組織された守備組織とスペースの奪い合いによる「プレッシングフットボール」が行われている。また、攻撃面においてはセットプレーと少ない手数での攻撃が主流となっており、より前への推進力が必要になる。このような状況下ではより体格と身体能力がチーム全体で求められる。身体能力は体格に比例することから大会を追うごとに選手の大型化が進んだことが推測された。また身長はセットプレーにおいて重要な要素の 1 つであるため、今後も重要視されることは間違いなさであろう。